

東京藝術大学

令和 6 年度 財務レポート

(令和 6 事業年度 令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日)



TOKYO GEIDAI

東京藝術大学の使命と目標

東京藝術大学は、その前身である東京美術学校、東京音楽学校の創立以来130余年間、我が国の芸術教育研究の中枢として、日本文化の伝統とその遺産を守りつつ、世界の芸術思想及び技術を摂取、融合を図り幾多の優れた芸術家、中等教育から高等教育に亘る芸術分野の教育者・研究者を輩出してきました。

東京美術学校



東京音楽学校



こうした歴史的経緯を踏まえつつ、総合芸術大学として、創立以来の自由と創造の精神を尊重し、我が国ひいては世界の芸術文化の発展を担い、社会とともに芸術の多様な価値を創出することが、東京藝術大学の使命であると考えています。

また、この使命の遂行のため、以下のことを基本的な目標としています。

- 世界最高水準の芸術教育を行い、
高い専門性と豊かな人間性を有した芸術家、芸術分野の教育者・研究者及び芸術に携わる全ての実践者を養成する。
- 国内外の芸術教育研究機関や他分野との交流等を行いながら、
伝統文化の継承と新しい芸術表現の創造を推進する。
- 心豊かな活力ある社会の形成にとって芸術のもつ重要性への理解を促す活動や、
全ての人が芸術に親しむ機会の創出に努め、芸術をもって社会に貢献する。



第4期中期目標期間におけるビジョン

芸術の力による、または、芸術と異分野との融合による、社会的課題の解決

第4期中期目標期間（R4～R9年度）においては、本学の使命と目標を踏まえ、また、これからのあるべき社会・世界を見据え、我が国唯一の国立総合芸術大学として、社会変革を駆動する決定的な役割を担うべく、その機能を拡張しつつ、デジタル技術等も取り込みながら新たな芸術領域を開拓し、芸術をより一層社会の中に接続させることで、「**芸術の力による、または、芸術と異分野との融合による、社会的課題の解決**」を全学的に推進していくことを基本的な方針として掲げています。

実現のための計画・方策

社会との共創

産学官を越えた世界最高水準の国際的な芸術文化拠点の構築

世界各国の卓越した芸術大学・機関・団体との連携・交流・協力

芸術の価値の社会発信により投資を呼び込み教育研究を高度化する好循環システムの構築

全国の地方自治体や産業界・関連機関との連携・協働の深化と、教育研究およびその成果の発信・社会実装の推進

芸術の力による誰一人取り残さない包摂的な共生社会の実現

幅広い年代の市民が芸術に親しむ機会の充実化

教育・研究

世界・社会で活躍するトップアーティストの戦略的育成の推進

芸術と社会との繋がりや異分野についての幅広い学修機会の整備、分野横断的なプログラムおよび新しい専攻の整備、企業等との共同研究の機会の充実化

芸術の力による社会的課題の解決を実践する社会人のキャリアアップ支援

履修証明プログラムや企業人向けの研修プログラム等の充実化

国際感覚を持った人材の養成

海外一線級アーティストの指導機会や国際共同プロジェクトの拡充

学術研究の卓越性・多様性の強化と継承・発展

芸術の継承と新しい表現の創造の深化、芸術資源の保存・アーカイブ化の促進、多様な人材が集う芸術分野の研究拠点の形成

大学運営

強靱なガバナンス体制の構築

経営・運営の意思決定への監事や外部委員の参画、地方自治体や民間企業等と意見交換する仕組みの構築

施設及び設備等の保有資産

「インフラ長寿命化計画」に基づく施設設備の運用、スペースチャージの拡大等による土地建物の有効活用、デジタル空間上のキャンパス「東京藝大デジタルツイン」の整備・活用の推進

東京藝術大学の基礎情報

学生数

	美術	音楽	映像	国際芸術創造	合計
学部	1,001名	1,001名	-	-	2,002名
大学院（修士）	567名	278名	136名	25名	1,006名
大学院（博士）	135名	62名	12名	23名	232名
別科	-	66名	-	-	66名
附属高等学校	-	110名	-	-	110名

学位授与数・修了者数・卒業者数

	美術	音楽	映像	国際芸術創造	合計
学部	240名	225名	-	-	465名
大学院（修士）	236名	98名	60名	12名	406名
大学院（博士）	39名	12名	5名	2名	58名
別科	-	21名	-	-	21名
附属高等学校	-	37名	-	-	37名

※論文博士を含む

教職員数

教員	267名
職員等	166名
合計	433名

建物及び土地面積

校地	建物延	土地
上野校地	98,851㎡	69,663㎡
取手校地	22,505㎡	164,095㎡
横浜校地	4,667㎡	1,927㎡
千住校地	6,546㎡	4,045㎡
奈良・古美術研究施設	1,036㎡	1,792㎡
東和・藝心寮	8,846㎡	7,811㎡
愛住・美術愛住館	579㎡	350㎡
合計	143,030㎡	249,683㎡

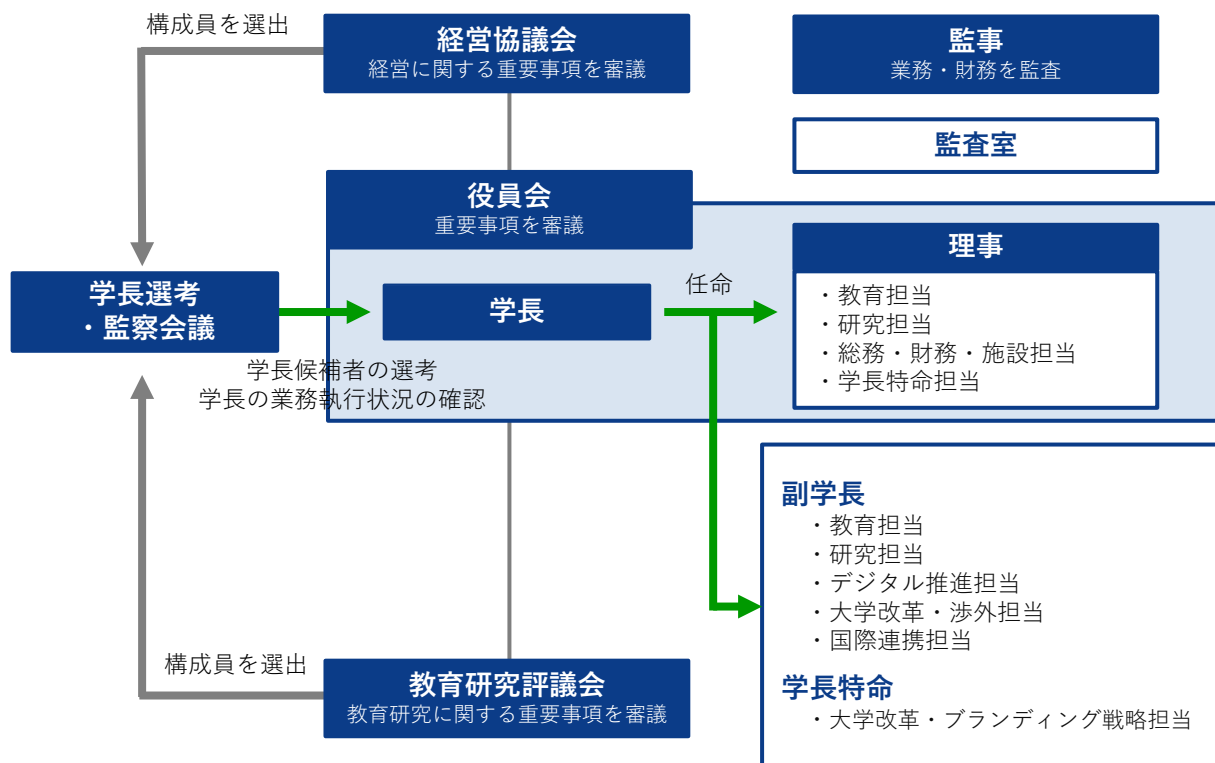
国際交流

大学間交流協定締結機関	28カ国・地域 78機関
外国人留学生	39カ国・地域 321名

所蔵品・楽器・蔵書

美術工芸品・標本・資料	30,799件
楽器	2,803点
蔵書冊数	422,841点
雑誌	5,454タイトル

※学位授与数・修了者数・卒業者数は令和6年度実績
そのほかは令和7年5月1日現在の実績を示す



部局	
- 学部 - 美術学部 - 事務部 - 附属古美術研究施設 - 附属写真センター - 音楽学部 - 事務部 - 附属音楽高等学校 - 藝大フィルハーモニア管弦楽団 - 大学院 - 美術研究科 - 音楽研究科 - 映像研究科 - 事務部 - 国際芸術創造研究科 - 大学別科	- 附属図書館 - 事務部 - 大学美術館 - 事務部 - 社会連携センター - 未来創造継承センター - 言語・音声トレーニングセンター - 演奏芸術センター - 保健管理センター - 芸術情報センター - 藝大アートプラザ

事務局
- 企画総務課 - 経営改革プロジェクト課 - 人事労務課 - 財務会計課 - 社会連携課 - 学生課 - 施設課 - 千住校地事務センター

令和6年度の主なTOPIC

社会との共創

「芸術未来研究場」にアート×ビジネス領域が新設

令和5年に新設した「芸術未来研究場」は、人が生きる力であるアートを根幹に据え、人類と地球のあるべき姿を探求するための組織として、**全学横断的に学外の様々な組織と協働・連携して、社会の様々な領域におけるアートの新たな価値や役割を創出すること**を目的としています。「ケア・コミュニケーション」「アートDX」「クリエイティヴアーカイヴ」「キュレーション」「芸術教育・リベラルアーツ」の横断領域に加え、令和6年度から新たに「アート×ビジネス領域」が加わりました。**アート×ビジネス領域ではアート事業の解析及び研究開発を通じて、アーティストの活躍を促す持続的な経済活動や成長するビジネス環境を構築すべく、自治体や企業等と共創し社会実装を目指します。**



アート×ビジネス領域の取組の一つとして、馬喰町エリアにあるオフィスの一角を改修し、**様々な企業、研究者、本学在校生や本学卒業生の若手アーティストが活動・交流を展開していくためのプロジェクトスペースを整備**しました。藝大卒業後間もない若きアーティストの活動支援のためのレジデンス・プログラムを実施し、その様子をオープンスタジオとして一般公開しました。



また、**アートプロジェクトの企画立案・運営・コーディネートを実践する全学対象授業「アーツプロジェクト実習」**を開講し、JR東日本×藝大のプロジェクトである上野駅のCREATIVE HUB UENO “es”等も活用しながら、展示の企画を実践する授業を行いました。

上段：オープンスタジオの様子
下段：「アーツプロジェクト実習」の様子

アート×ビジネス領域特設サイト <https://artbusiness.geidai.ac.jp/>

社会人を対象とした公開授業「有楽町藝大キャンパス」の開始

東京都、「有楽町アートアーバニズム」実行委員会、本学の三者間で、アートと社会を結ぶコーディネーター育成の取組を開始するための**「人材育成プログラムの実施に向けた連携協定」**を締結しました。

この連携協定に基づき、「有楽町アートアーバニズム」実行委員会が大手町・丸の内・有楽町地区において育んできた実証パイロットプログラム「有楽町アートアーバニズムYAU」のコミュニティを活用し、**藝大の授業を、新たな実践的なプログラム「社会共創科目（公開授業）」として社会人を対象に展開して**いきます。R6年度は、「有楽町藝大キャンパス」として、キュレーション教育研究センター・芸術情報センター、未来創造継承センターから5つの授業を提供しました。



社会共創科目「社会包摂のためのアートプロジェクト：音楽×身体表現×福祉Ⅰ（理論編）」の様子

有楽町藝大キャンパス特設サイト <https://yurakucho-geidai-campus.jp/>

令和6年度の主なTOPIC

教育・研究

デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業～Xプログラム～への採択

令和6年度の文部科学省「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業～Xプログラム～」に、2026年度に開設を予定している大学院映像研究科ゲーム・インタラクティブアート専攻、および全学部・研究科を対象にアート×デジタルの教育研究を推進するアートDXプログラムの事業構想が採択されました。

両取組を実行することで、高度化した科学技術や情報技術をより創造的かつ多様な形態で活用して、社会的課題の解決や新たな価値の創出に繋げることのできる、芸術的能力・感性と情報工学系の知識・技能を併せ持つ新たな高度クリエイティブ人材の育成を目指します。

東京科学大学(Science Tokyo)との研究マッチングイベントの実施

東京医科歯科大学（現：東京科学大学）との包括連携に基づく共同プロジェクトの一環として、両大学の研究者・学生等のマッチングイベントを実施しました。4月、11月に両大学をそれぞれ訪問し、施設見学やトークセッション・情報交換会を行ったほか、共同研究マッチングファンドを実施し、医療と芸術の融合による共同研究を推進しています。

東京藝術大学発ベンチャーの認定

本学の知的財産や研究成果を活用して起業されたベンチャー企業を支援するため、株式会社トリクスタに「東京藝術大学発ベンチャー」の認定証を授与しました。現行規則に基づくベンチャー認定としては第三号となります。株式会社トリクスタは、AIに代表されるテクノロジーおよび、海外資本導入による国際共同製作等を活用した映画製作事業におけるイノベーションの創出を行っています。

キャンパス整備

大学美術館に取手収蔵棟「魅せる収蔵庫」がオープン

東京藝術大学大学美術館に取手収蔵棟が竣工しました。通常、収蔵庫は作品の保存に特化した施設ですが、取手収蔵庫では収蔵品の保管と公開の機能を兼ね備えた「魅せる収蔵庫」を新たに設置いたしました。令和7年4月からは、藝大美術館の教員・スタッフによるガイドツアー形式で、「魅せる収蔵庫」の一般公開を行います。新たな収蔵庫のオープンを契機として、藝大コレクションの魅力とともに、作品を後世へ守り伝える取り組みを広く発信しながら、地域に開かれた美術館を目指します。



キャンパス環境維持にかかる資金確保

奏楽堂の大規模改修に向けた寄附プロジェクトの始動

奏楽堂の大規模改修（2028年度予定）に向けた財源を確保するため、奏楽堂のネーミングライツパートナーの募集事業と、個人・法人等から支援を募る寄附募集プロジェクトを開始しました。一定額以上の寄附者に対して「座席ネームプレートの掲示」や「特別コンサートへのご招待」等の魅力ある特典を提供します。

※寄附募集サイト <https://www.fund.geidai.ac.jp/projects/sogakudo-sos/>



学部・研究科の実績

美術学部・研究科

社会との共創

学内外の施設を活用した教育研究成果の発信および実践的な教育機会の充実

民間企業や地方自治体等と連携した多数の展覧会やプロジェクトを実施するとともに、**学生にとっての社会実践の機会**としても機能させました。

【民間企業・自治体等と連携したプロジェクトの例】

- ・群馬県桐生市との連携事業「Real time in KIRYU」
- ・長野県東御市との連携事業「天空の芸術祭」
- ・静岡県袋井市におけるパブリックアート制作
- ・ウィーン応用芸術大学との連携による2025大阪万博「カルチャースクリーン」プロジェクト
- ・寺社文化財や被災文化財の修復・復元事業

教育・研究

海外大学・機関との交流の拡大

グローバルアートプラクティス専攻が開設当初から実施している、ロンドン芸術大学、エコールデボザール（パリ）との国際共同カリキュラム（ロングユニット）では、今年はさらにタイのシラパコーン大学との連携が実現しました。**本学が架け橋となって、地域の垣根を超えた交流が広がっています。**

財務情報

(単位:百万円)

教育研究環境への投資状況

103

主な内容

・ガラス工芸用溶解炉や空調設備等を更新し、実習環境の改善に取り組んでおります。

財源の内訳

運営費交付金	1
授業料・その他自己収入	26
目的積立金等	46
寄付金	5
施設整備費	7
補助金	18

運営状況

費用	2,965	収益	2,967
教育経費	592	運営費交付金収益	1,428
研究経費	166	学生納付金収益	1,257
教育研究支援経費	2	外部資金	232
受託研究他	87	自己収入	17
人件費	2,059	その他	33
一般管理費	59		
その他	0		

外部資金の内訳

受託研究収益	20
共同研究収益	7
受託事業等収益	53
寄附金収益	89
施設費収益	1
補助金等収益	62

社会との共創

学内外の施設を活用した教育研究成果の発信および実践的な教育機会の充実

本学の奏楽堂等を活用し、各種有料演奏会、試験演奏会、学位審査演奏会等を開催したほか、学外の企業・団体等からの依頼に基づく演奏活動を多数実施するとともに、**学生を派遣する等の取組により、実践的な活動機会の充実**を図りました。

【学外の企業・団体等からの依頼に基づく演奏活動の例】

- ・第74回チャリティーコンサート メサイア
- ・LEXUS コンサート
- ・アーティストinくろべ 青少年交流事業
- ・東京ガーデンテラス紀尾井町での KIOI CONCERT
- ・各種授賞式・全国戦没者追悼式など式典における演奏
- ・小中学校等へのアウトリーチ活動

教育・研究

海外大学・機関との交流の拡大

数々の海外一線級演奏家の招聘や演奏会での共演を実現しました。また、長年連携を続けているパリ国立高等音楽院との交流事業では、音楽学部だけでなく美術学部の学生も渡仏し、音楽とパフォーマンスによる即興演奏を、パリ音楽院の学生たちとともに繰り広げました。

財務情報

(単位:百万円)

教育研究環境への投資状況

128

主な内容

・配電、空調設備等の更新を実施し、実習環境の改善に取り組んでおります。

財源の内訳

運営費交付金	0
授業料・その他自己収入	6
目的積立金等	16
寄付金	0
施設整備費	105
補助金	1

運営状況

費用	2,153	収益	2,169
教育経費	483	運営費交付金収益	942
研究経費	45	学生納付金収益	979
教育研究支援経費	1	外部資金	175
受託研究他	49	自己収入	54
人件費	1,527	その他	19
一般管理費	46		
その他	2		

獲得外部資金の内訳

受託研究収益	23
共同研究収益	7
受託事業等収益	38
寄附金収益	56
施設費収益	18
補助金等収益	33

社会との共創

学内外の施設やオンラインを活用した教育研究成果の発信および実践的な教育機会の充実

キャンパスが所在する横浜市をはじめ、作品上映やワークショップを通じて、**地域と連携した成果発信**を推進しました。

【地域と連携した成果発信の例】

- ・ 関内ホールでの「馬車道まつり トワイライトコンサート」
- ・ 神奈川県民共済シネマホールでのアニメーション専攻修了制作展
- ・ 横浜市との連携による公開講座「コンテンポラリーアニメーション入門」「映像とあそぼうワークショップ2024」

教育・研究

映画専攻設立20年記念上映会

大学院映像研究科および映画専攻は、**2024年度で設立20年を迎えました**。節目の年として1~20期生の代表作を集めた上映会を開催し、これまで輩出してきた多数のクリエイターの作品を、彼らの学生時代の作品とともに上映しました。続く2025年にはメディア映像専攻、2027年にはアニメーション専攻が設立20年を迎える中、**2026年には新たにゲーム・インタラクティブアート専攻の開設も予定**しており、これからも進化を続けていきます。



日比野学長による『20th』キービジュアル

財務情報

(単位:百万円)

教育研究環境への投資状況

17

主な内容

・コンピュータや音響設備等を整備し、教育研究活動の充実化に取り組んでおります。

財源の内訳

運営費交付金	-
授業料・その他自己収入	3
目的積立金等	2
寄付金	-
施設整備費	-
補助金	12

運営状況

費用	515	収益	530
教育経費	169	運営費交付金収益	317
研究経費	35	学生納付金収益	129
教育研究支援経費	2	外部資金	75
受託研究他	15	自己収入	1
人件費	285	その他	8
一般管理費	9		
その他	0		

獲得外部資金の内訳

受託研究収益	-
共同研究収益	-
受託事業等収益	15
寄附金収益	10
施設費収益	-
補助金等収益	50

社会との共創

学内外の施設やオンラインを活用した教育研究成果の発信および実践的な教育機会の充実

キャンパスが所在する足立区をはじめ、地域やNPO法人等と連携した多彩なアートプロジェクトの企画・運営に学生が参加するなど、実践的な教育を行いました。

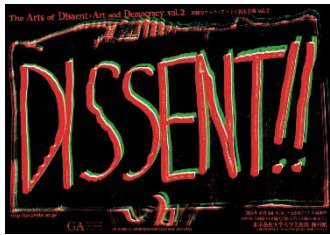
【地域やNPO法人等と連携したアートプロジェクトの例】

- ・足立区千住のまちなかアートプロジェクト「アートアクセス 音まち千住の縁」
- ・山形県酒田市との連携事業「アーティスト・イン・レジデンスさかた」
- ・（一社）カルチャービジョンジャパンとの共催事業

教育・研究

国際的課題への芸術の対応

昨今の国際情勢不安を受けて、民主主義と芸術との関係を議論するための展覧会「不和のアート：芸術と民主主義 vol. 2」を開催しました。30組以上の世界各国の教員や学生などが参加し、展示やパフォーマンス、ディスカッション、ワークショップなどを通じてこの危機的な状況において何ができるのか検討しました。



「不和のアート：芸術と民主主義 vol. 2」
イメージビジュアル

財務情報

(単位:百万円)

教育研究環境への投資状況

1

主な内容

・コンピュータやカメラ等の研究機器を調達し、新たな教育研究環境の整備・充実化を行いました。

財源の内訳

運営費交付金	0
授業料・その他自己収入	1
目的積立金等	-
寄付金	-
施設整備費	-
補助金	-

運営状況

費用	165	収益	170
教育経費	17	運営費交付金収益	101
研究経費	33	学生納付金収益	32
教育研究支援経費	-	外部資金	36
受託研究他	9	自己収入	0
人件費	106	その他	1
一般管理費	0		
その他	0		

獲得外部資金の内訳

受託研究収益	5
共同研究収益	0
受託事業等収益	5
寄附金収益	2
施設費収益	-
補助金等収益	24

令和 6 事業年度決算

財務諸表等の概要

国立大学法人では、国民その他ステークホルダー（利害関係者）に対し財政状態や運営状況に関する説明責任を果たし、自己の状況を客観的に把握する観点からの作成及び公表が義務付けられています。ここでは、皆様に本学の財務状況をお伝えするために、令和 6 年度決算のポイントを説明します。

正式な財務諸表等は、こちら（東京藝術大学HP）に掲載されています。

https://www.geidai.ac.jp/information/info_public/legal/library_of_legalinfo#FinancialInformation

1. 貸借対照表の概要

(単位：百万円、単位未満切り捨て)				
科目	(令和5年度)	令和6年度	増減	増減比
資産の部	(73,735)	72,891	△ 843	-1%
【主な科目】				
土地 ※1	(37,707)	37,421	△ 286	-1%
建物・構築物	(22,167)	21,864	△ 303	-1%
工具器具備品	(1,068)	1,117	49	5%
図書	(1,528)	1,550	21	1%
美術品・収蔵品	(5,020)	5,049	28	1%
現金及び預金 ※2	(4,658)	4,327	△ 331	-7%
負債の部	(7,108)	6,320	△ 787	-11%
【主な科目】				
長期前受収益	(1,675)	1,586	△ 88	-5%
運営費交付金債務 ※3	(48)	109	60	126%
寄附金債務	(2,125)	2,222	97	5%
未払金 ※4	(1,999)	912	△ 1,086	-54%
純資産の部	(66,626)	66,571	△ 55	0%
【主な科目】				
前中期目標期間繰越積立金 ※5	(552)	428	△ 123	-22%
目的積立金 ※6	(286)	695	409	143%
当期末処分利益	(798)	466	△ 332	-42%

対前年度増減比率が大きい科目とその主な増減要因

- ※1 国際交流会館の売却のため、前年度より減少している。
- ※2 現金及び預金：債券購入や大規模工事の代金支払い等のため、前年度より減少している。
- ※3 運営費交付金債務：基盤的設備整備のための交付金等を翌期に繰り越したため、前年度より増加している。
- ※4 未払金：前年度は、翌期の支払いのために、多額の工事代金等を未払金を計上していた影響もあり、前年度より減少している。
- ※5 前中期目標期間繰越積立金：設備改修工事等の財源として取り崩したため、前年度より減少している。
- ※6 目的積立金：前年度の未処分利益のうち、経営努力により生じたものとして、文部科学大臣の承認を受けた分を計上したため、前年度より増加している。

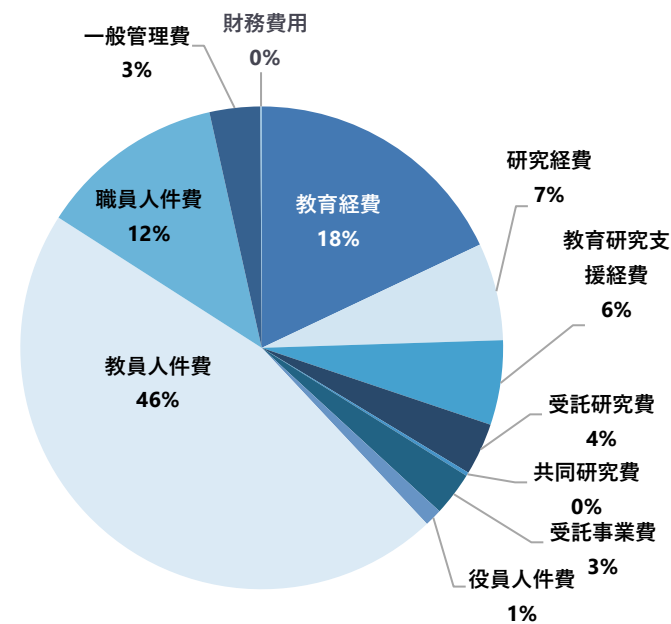
2. 損益計算書の概要

(単位：百万円、単位未満切り捨て)				
科目	(令和 5 年度)	令和 6 年度	増減額	増減比
経常費用	(8,571)	9,296	725	8%
【主な科目】				
教育経費	(1,581)	1,670	88	6%
研究経費 ※1	(380)	606	226	60%
受託研究費等	(581)	620	38	7%
人件費	(5,324)	5,549	224	4%
一般管理費	(289)	315	26	9%
経常収益	(9,259)	9,621	361	4%
【主な科目】				
運営費交付金収益	(5,231)	5,042	△ 188	-4%
学生納付金収益	(2,447)	2,446	0	0%
受託研究等収益等	(604)	640	35	6%
寄附金収益 ※2	(324)	458	134	41%
施設費収益 ※3	(48)	89	40	84%
補助金等収益 ※4	(204)	513	308	151%
入場料収入	(50)	63	13	27%
公開講座等収入	(87)	103	15	18%
経常利益	(688)	324	△ 363	-53%
臨時損失 ※5	(0)	15	14	2272%
臨時利益 ※6	(14)	41	27	186%
目的積立金取崩額等	(96)	114	18	19%
当期総利益	(798)	466	△ 332	-42%

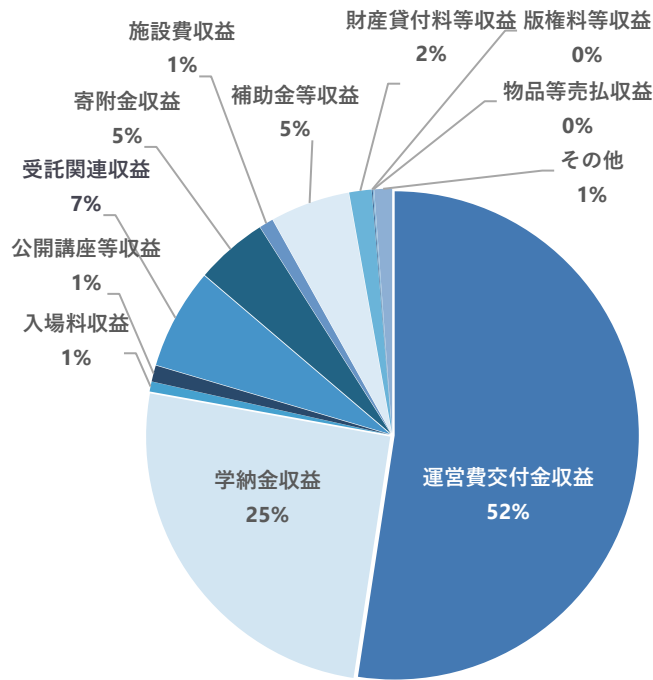
対前年度増減比率が大きい科目とその主な増減要因

- ※1 研究経費：「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」による補助金等を財源とする研究活動が拡大したため、前年度より増加している。
- ※2 寄附金収益：寄附金を財源とした施設整備や附属音楽高等学校国際交流事業等を実施したため、前年度より増加している。
- ※3 施設費収益：施設整備費補助金を財源とする建物の修繕費等、収益と相対する費用が増加したため、前年度より増加している。
- ※4 補助金等収益：※1に掲げた事業等の補助金を財源とする費用等の計上額の増加に伴い、相対する収益化額も前年度より増加している。
- ※5 固定資産の除却や売却に伴う損失のほか、過年度に交付を受けた施設整備費の返還に伴い、前年度より増加している。
- ※6 損害保険の保険金に加えて、過年度に寄附を受けた楽器受入の会計処理に伴い、前年度より増加している。

経常費用の内訳



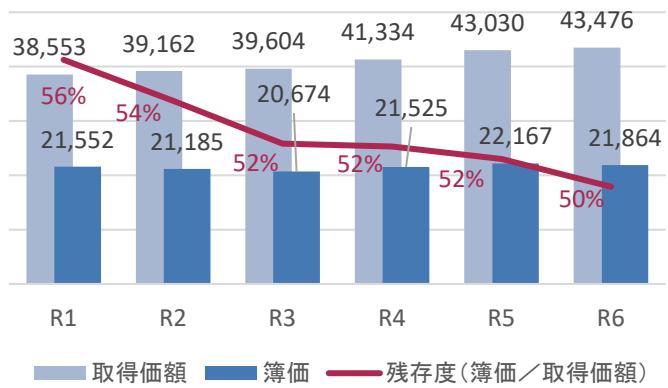
経常収益の内訳



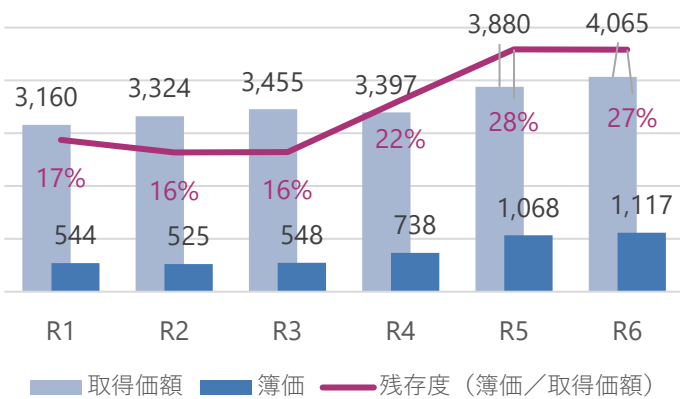
3. 有形固定資産

(単位：百万円)

施設(建物・構築物)の推移



設備(工具器具備品)の推移

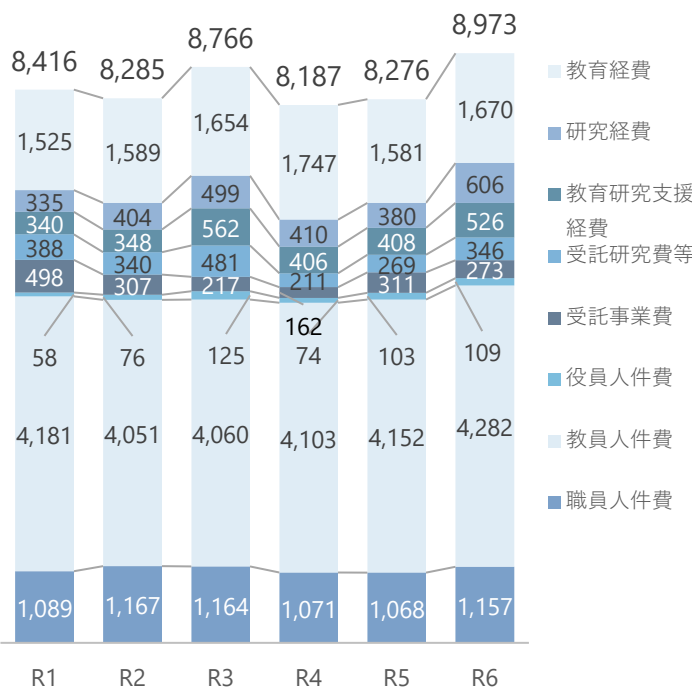


【施設】投資により取得価額が増加している一方で、簿価及び残存度は減少傾向にあるため、投資は進んでいるが、それ以上に老朽化・陳腐化が進んでいることが推測される。

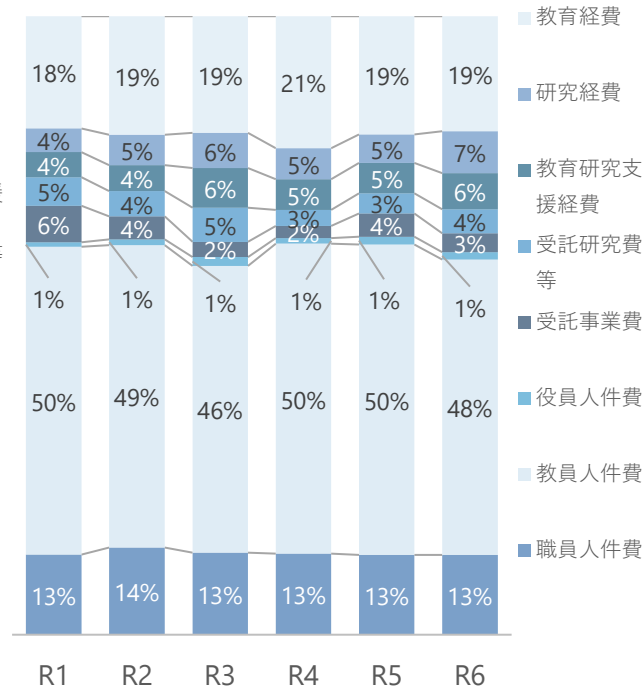
【設備】前年度と比べて、取得価額及び簿価は増加しているが、残存度がわずかに減少に転じており、投資に対して、老朽化・陳腐化がやや進んでいることが推測される。

4. 業務費

業務費の金額の推移 (単位：百万円)

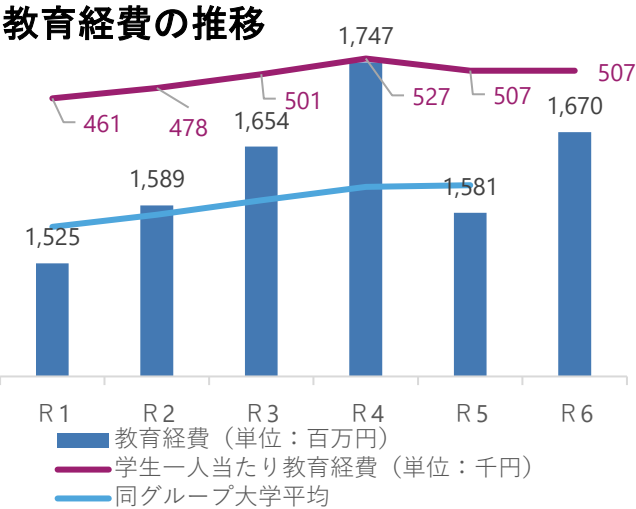


業務費の割合の推移



5. 教育経費・研究経費

教育経費の推移

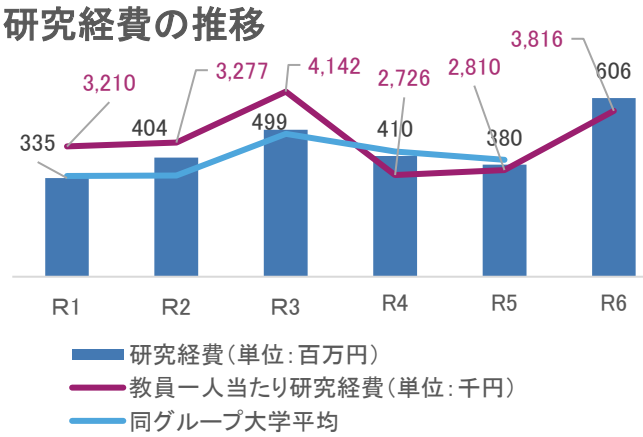


教育経費は、前年度の減少から再び増加に転じている。
学生一人当たり教育経費については、近年、同グループの大学の平均を上回る傾向にある。

学生一人当たり教育経費：学生当たりの教育経費であり、この数値が大きいほど学生一人当たりにかけられた教育目的の物件費等が大きいことを示す。

同グループ文科系大学(福島大学、筑波技術大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学(、令和3年度まで小樽商科大学を加えて比較)

研究経費の推移



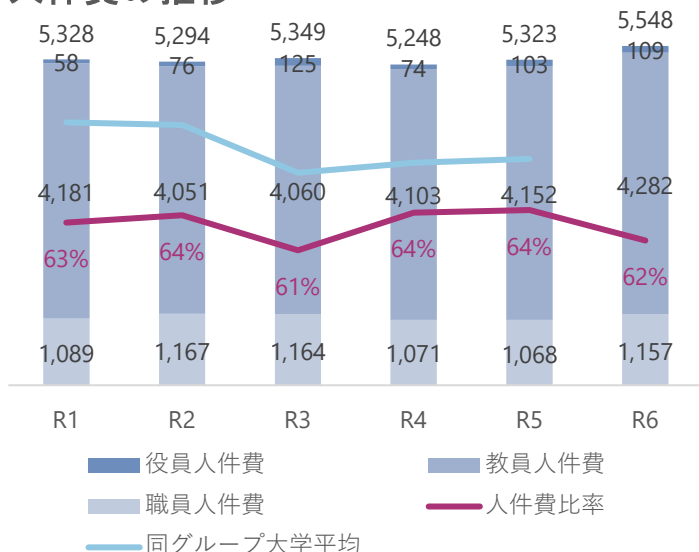
研究経費は、近年、減少が続いていたが、再び増加に転じている。
教員一人当たり研究経費は、補助金等を財源とする研究経費の増加もあり、前年度比で増加している。

教員一人当たり研究経費：常勤教員当たりの研究経費であり、この数値が大きいほど教員一人当たりにかけられた研究目的の物件費等が大きいことを示す。

6. 人件費・一般管理費

人件費の推移

(単位：百万円)



人件費は、教職員数の増加や役職員の退職手当の増加等のため、前年度比で増加している。

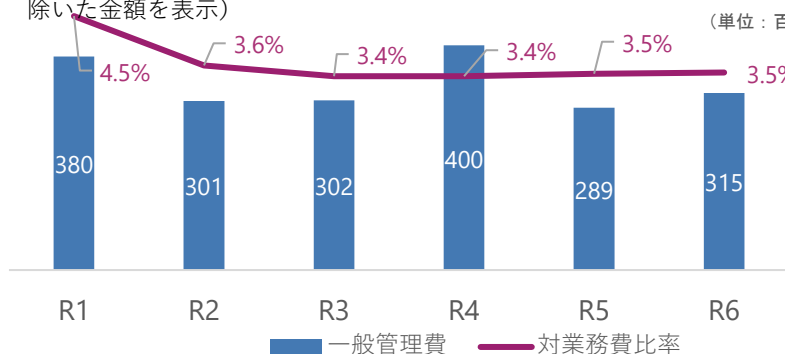
同グループ大学と比較すると、近年の人件費比率は、平均を下回る傾向にある。

人件費比率：人件費が業務費に占める割合を示す指標。この数値が高いほど、学内の教育・研究等の業務が主に教職員等の人材に依っていると解釈できる。

一般管理費の推移

(令和2年度分については取手校地ライフライン再生工事に係る支出193百万円を除いた金額を表示)

(単位：百万円)

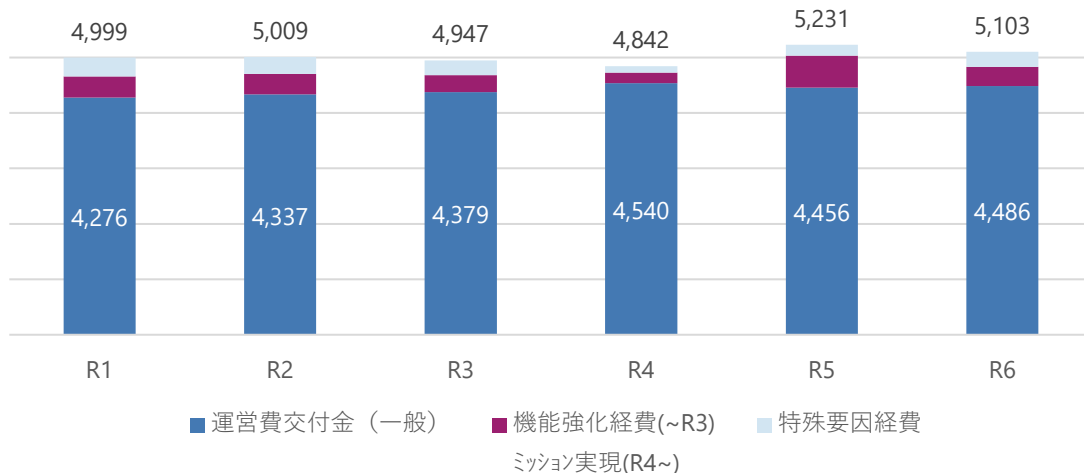


一般管理費は、建物の修繕工事の増加等のため、前年度比で増加している。

7. 運営費交付金

運営費交付金措置額 (追加配分含む)

(単位：百万円)



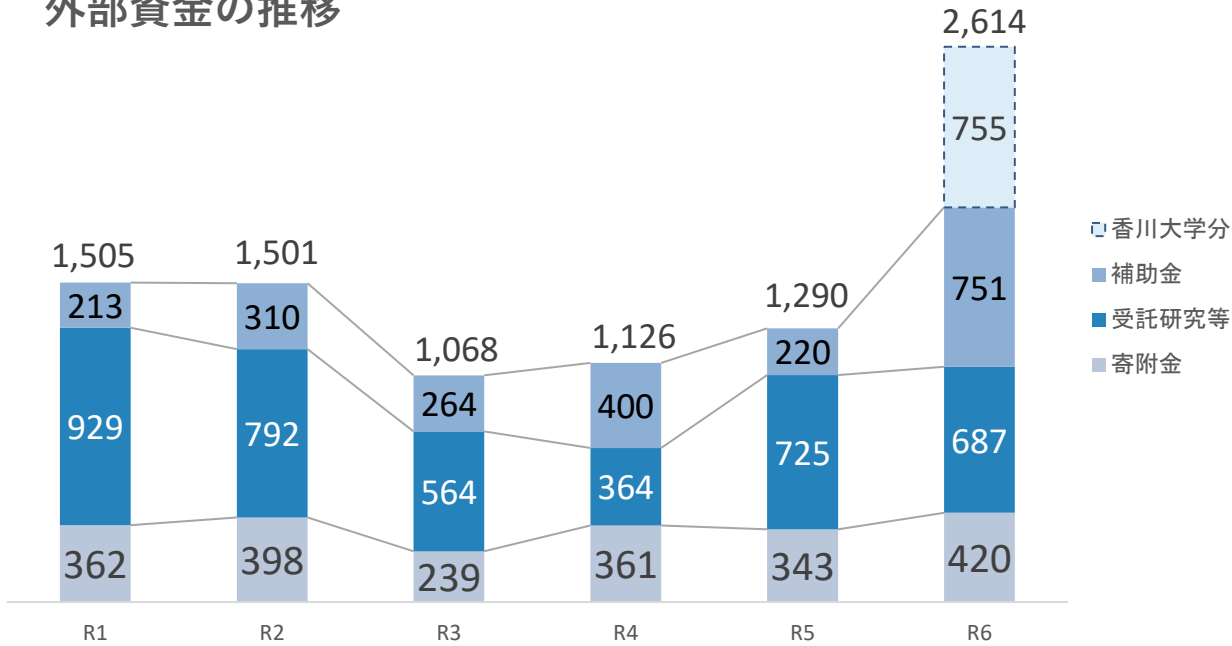
ミッション実現加速化係数(令和3年度までは機能強化促進係数)の適用を受けて、運営費交付金(一般)の基盤的部分は、毎年約1%が削減されている。

前年度は、大学美術館取手収蔵棟収蔵棚整備のための交付金が措置されたため、増額となったものの、令和6年度の総額では、前年度比で128百万円(約2.5%)減少している。

8. 外部資金

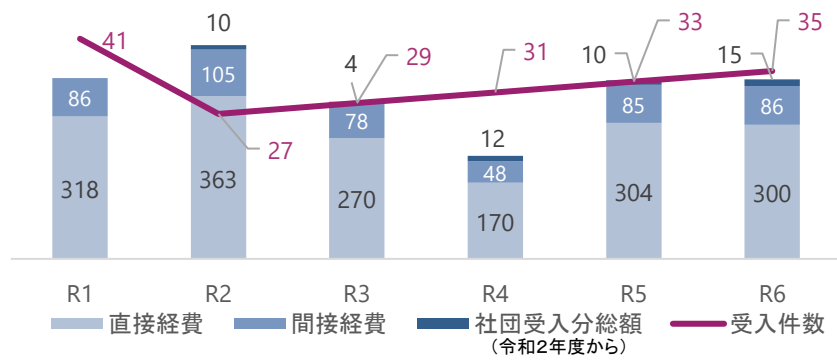
(単位：百万円)

外部資金の推移



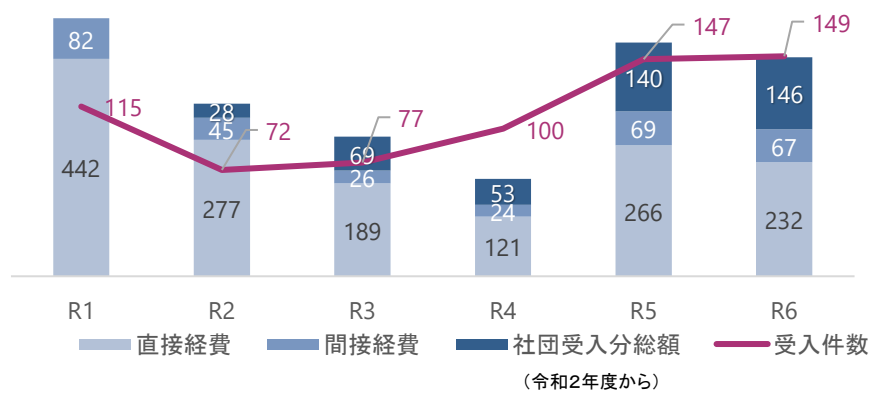
9. 受託研究等

受託研究等の受入額・受入件数の推移 (単位：百万円)



受託研究の受入額は減少しているものの、共同研究の受入額が増加し、社団分を含めた受入額の総額は、前年度比で増加している。

受託事業等の受入額・受入件数の推移 (単位：百万円)

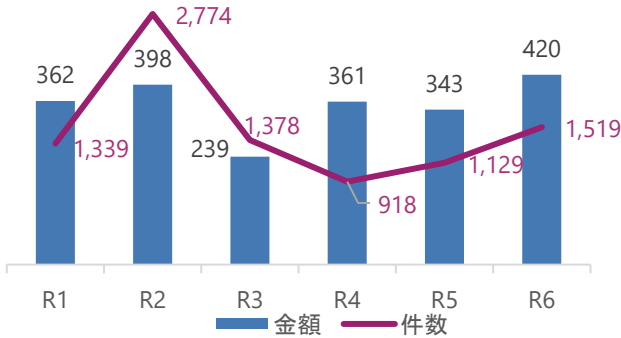


社団分の受入額はやや増加しているものの、受託事業の受入額の減少に伴い、受入額の総額は、前年度比で減少している。

10. 寄附金

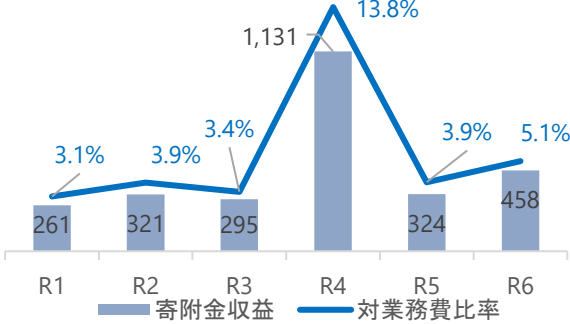
寄附金受入額の推移

(単位：百万円)



寄附金収益の推移

(単位：百万円)

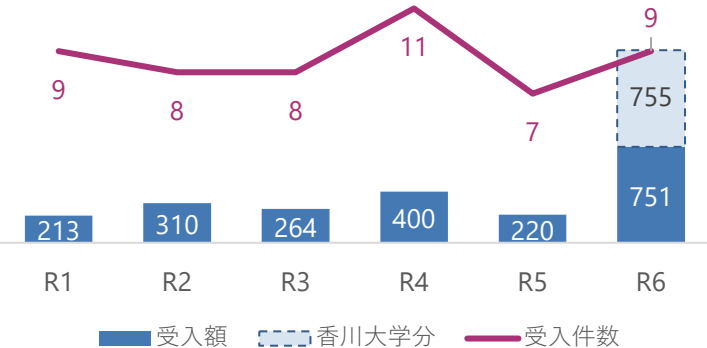


寄附金は、受入件数、受入額及び収益額のいずれも前年度より増加している。
寄附金収益と対業務費比率の推移を見ると、収益額の増減に伴い、対業務比率も同様に変化していることから、対業務費比率の増加が、大学業務の運営に占める寄附金への依存度に大きく影響を及ぼすものではないと考えられる。

11. 補助金等

補助金等の受入額・受入件数の推移

(単位：百万円)

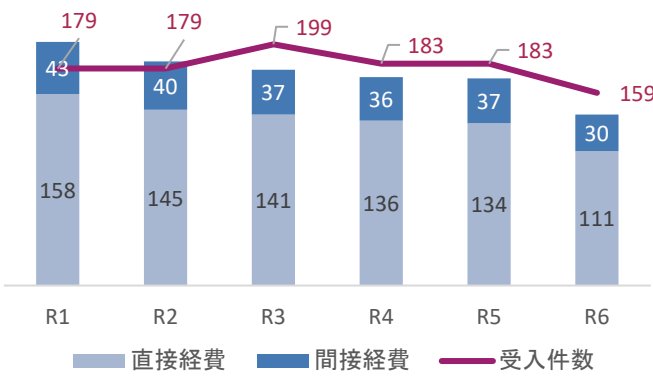


補助金等については、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」の補助金の増加等のため、前年度より受入額も増加している。
(令和6年度は、香川大学分755百万円を含む。)

12. 科研費

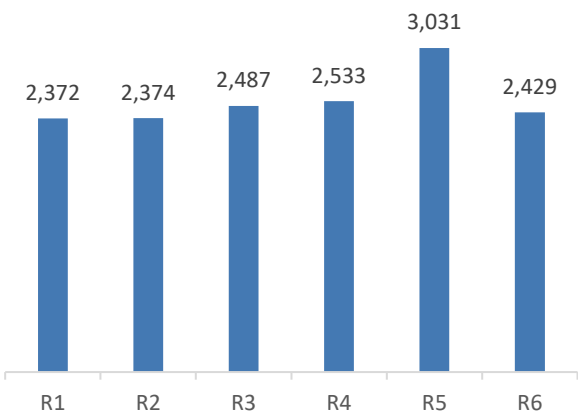
科研費の受入額・受入件数の推移

(単位：百万円)



国の科研費の予算額の推移

(単位：億円)



※日本学術振興会「科研費の予算額の推移」(2025年1月15日現在)
https://www.jsps.go.jp/file/storage/kaken_27_kdata_g1333/1-1_r5.pdf

科研費については、受入件数、受入額ともに、前年度から減少している。なお、国の科研費の予算額は、近年、増加傾向が続いていたが、令和6年度は、減少している。



TOKYO GEIDAI

作成：国立大学法人東京芸術大学 財務会計課

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

本財務報告書は、東京芸術大学ホームページに掲載しております。

URL：https://www.geidai.ac.jp/information/info_public/legal